



# 生物多様性センター Biodiversity Center of Japan

第7号

2003. 4.25

## ニュースレター

### CONTENTS

インターネット自然研究所 リニューアル	-----	1
生物多様性センターの見学について	-----	2
鈴木俊一環境大臣 生物多様性センターを視察	-----	2
自然環境保全基礎調査（緑の国勢調査）の紹介	-----	3, 4
みんなの広場	-----	5
人の動き、センターの動き、来館者	-----	6

## インターネット自然研究所 リニューアル

インターネット自然研究所は、一般の方にも豊富な自然環境情報を提供することにより、わが国の自然環境の現状や保全について十分知って頂くことを目的に、平成13年7月20日より運用を開始し、情報を提供して参りました。今回インターネット自然研究所は3月24日に使い勝手の改善を中心としてホームページのリニューアルを行いました。更新の主な内容は以下のとおりです。

- ① トップページにコンテンツの概要を表示
- ② サイト内検索システムの導入
- ③ 国立公園・野生生物ライブ映像
  - ・ トップページにベストショットを追加
  - ・ 一部拠点にカメラ周辺の紹介として動画を追加
- ④ 四季のいきもの前線の操作性の改善
- ⑤ RDB 電子図鑑の完成（102種について）
- ⑥ 一部コンテンツに英語版を追加

インターネット自然研究所に関しましては、これからも様々な意見を探り入れ、一層の充実を図っていく所存です。皆様のご意見をお寄せ頂くとともに、今後のインターネット自然研究所にどうぞご期待ください！



環境省 インターネット自然研究所  
<http://www.sizenken.biodic.go.jp/>

## 生物多様性センターの見学について

生物多様性センターでは、普及啓発の一環として展示室や図書資料閲覧室を公開し、一般の来館者が自由に見学できるようにしています。さらに、事前に申し込みのあった団体については、センターの職員が解説を行い館内をご案内しています。

代表的な例としては、まず、普段はあまり聞き慣れない「生物多様性」という言葉の意味について解説をします。続いて、センター業務の概要や、センターで収蔵している動物の標本についてその種の生息状況などを交えて解説します。

平成14年度の見学対応件数は23件で、団体の見学者数の総数は711名でした。団体としては、小中学校が一番多く、総合学習や富士山地域での環境学習を目的として訪れる学校が多いようです。

他には、生物系を専攻している大学の研究室や環境保全活動をしている市民団体・企業が研修で訪れることもあります。このようなご案内を行っている時、生物多様性の保全というテーマに、多くの方々が関心を持たれていることを実感します。生物多様性センターではこれからも、生物多様性の保全についての普及啓発活動を積極的に進めていく予定です。



大会議室での解説風景



総合学習の課題研究で質問にきた地元の小学生グループ

### 見学の受付ご案内



解説付きの見学をご希望の方は、事前に、団体名、人数、日付などをお知らせください。見学の目的も教えていただければ、目的に合わせた解説をいたします。

TEL : 0555-72-6033

## 鈴木俊一環境大臣 生物多様性センターを視察

1月15日、鈴木俊一環境大臣は富士吉田市内で国立公園内の低公害バスの使用状況を視察した後、生物多様性センターの視察を行いました。生物多様性センターでは、北沢センター長等から説明を受けながらセンター内を見学しました。

視察後、鈴木大臣は記者の質問に対して「本日の生物多様性センターの視察により、改めて我が国の自然環境情報の収集、蓄積と提供の重要性を実感した。これまでの30年間にわたる自然環境保全基礎調査が自然環境行政に重要な役割を果たしてきたものと認識している。」と感想を述べました。



# 自然環境保全基礎調査（緑の国勢調査）の紹介

## 平成15年度実施予定調査の概要

### 1. モニタリングサイト1000

(1) 「新・生物多様性国家戦略」に基づくモニタリングサイト1000の実施

平成14年3月に決定された「新・生物多様性国家戦略」において、今後の自然環境施策を実施していく上での基本的な視点として、「科学的認識」の重要性が確認され、「自然環境保全基礎調査など、科学的データに基づく理解、認識を施策決定の出発点とする」とされました。この中でも、自然環境保全基礎調査の新たな展開として、「自然環境の劣化を早期に把握し、要因を特定するなど全国1,000カ所程度の監視地域（モニタリングサイト）を国が設定し、動植物や生息・生育環境の長期的なモニタリングを展開すること」が主要テーマとして掲げられました。

このため、平成15年度より、環境省が全国の重要な生態系を含む地域をモニタリングサイトとして設定し、動植物や生息・生育環境の長期的なモニタリングを開始します。

これらは、今後の新たな保全施策の立案や、戦略的環境アセスメント、温暖化による気候変動把握のための新たな基礎情報の提供に資するものです。

#### (2) 事業の概要

全国の自然環境の総合的な把握を進めるため、精度の高い量的把握、継続的な監視などを行う「重要生態系監視地域」（モニタリングサイト）を平成15年度から5年間で1,000カ所程度設置します。

モニタリングサイト1000は、自然性の高い森林、草原、湿地、希少種が生息・生育する里地里山、渡り鳥の飛来地、豊かな生物相を有する干潟、藻場、サンゴ礁等の浅海域など生物多様性の保全上重要な生態系または代表的な生態系や都市内の樹林地など比較的人為の影響を受けていると考えられる生態系等を対象とし、また

「新・生物多様性国家戦略」に記載されている「生物多様性保全のための地域区分（自然環境の特性を踏まえた国土の10区分）」を代表する生態系を対象として、今後選定することとしています。

調査内容としては、生物相、指標種等分布、生物現存量、気温、風量、水質、水温等や、温暖化進行に伴う指標となる植生等について、各サイトの特性に応じた調査を開始します。

### モニタリングサイト 1000 の概要

#### モニタリングサイトの設置

・国土の生態系特性に応じて、生態系の継続監視を行なうために、5年間で1000カ所設置

#### モニタリング

・サイトの生態系特性によりモニタリング項目を設定  
例 生物相、指標種等分布、生物現存量、気象 等



- ・国内の代表的生態系の把握
- ・モニタリングサイトの変化の監視（移入種、温暖化指標種）
- ・データの継続的蓄積による「標準地」として位置づけ

### 2. 植生調査

我が国の自然環境の最も基本的な構成要素である植生については、第2回及び第3回の調査結果により全国の現存植生図（1/50,000）が作成され、第4回及び第5回の調査では人工衛星データにより把握可能な植生改変地域の更新を行ってきました。

しかし、環境影響評価法が施行され、また里地・里山の保全等近年の自然環境への関心の高まりの中、植生図は自然環境に関する最も基礎的な資料として、今後の自然環境保全施策の適切な推進に必要不可欠であり、国が環境アセスメントのスクリーニングの基礎資料としても現実の植生のデータを提供していくことが求められているため、平成11年度から現存植生図の更新を、1/25,000スケールで行っています。

平成14年度末までに現存植生図934面、植生図作成の前段階として植生情報が記載された判読情報資料図1,368面の整備が完了し、これまでに作成された1/25,000現存植生図は全国の2割程度となりました。今後、公開資料としての提供を行っていきます。

### 3. 海域自然環境保全基礎調査

#### 浅海域生態系調査

浅海域における藻場、干潟等を中心とする生態系は、多様な生物が生息するとともに、水質浄化、魚類の繁殖環境を確保する等、重要な役割を果たすことが指摘されているものの、これらの海域における生態系に関する機能等を具体的に示す情報は特に少ないのが現状です。

その為、平成14年度より概ね5年間で生物相や生態系機能に関与している種の現存量の把握等を行い、重要な浅海域生態系特定のための基礎的資料を重点的に収集する調査を実施します。専門家の意見をもとに、多様な生物たちの生息地、典型的で規模の大きな湿地あるいは希少種の生息する湿地等我が国の特に重要な湿地が、平成13年環境省により「日本の重要湿地500」として選定され、浅海域調査はこのリストから選出されています。

### 4. 種の多様性調査 中・大型哺乳類調査

野生動植物に関する全国的な分布現況、生息・生育状況を把握するために実施する調査です。平成12年度から14年度まで、鳥獣保護法の改正等を踏まえ、中・大型哺乳類（サル、シカ、クマなど）調査を都道府県委託調査として実施し

ました。平成15年度は、これまでに各都道府県から情報提供のあった中大型哺乳類の分布情報について、全国的に解析・とりまとめを行います。

### 5. 生態系多様性地域調査

保全すべき重要な生態系が成立している地域について、現地調査等により生態系の構成要素及びその構造を総合的に把握し、生態系の監視や生物多様性の保全上重要な地域の保全指針を作成する上で必要な基礎資料を得ることを目的としています。平成15年度は、都道府県委託により、北海道において湿原生態系調査を引き続き実施する予定です。

### 6. 鳥類標識調査[鳥類観測ステーション]

鳥類観測ステーションを中心に、鳥類の代表的な渡り鳥の中継地、繁殖地、越冬地における基礎的標識調査、渡り鳥保護条約等の国際要請に基づく標識調査、緊急に保護を要する鳥類の標識調査等を行うものです。昭和46年度から毎年実施している調査で、平成15年度も前年度に引き続き実施します。

### 7. 定点調査[シギ・チドリ類、コアジサシ調査]

昭和42年度に開始（当初は「鳥獣保護事業基本調査」）以来、シギ・チドリ類及びコアジサシの繁殖及び渡来状況等について調査を行い、湿地の保全、鳥獣保護区の設定等のための基礎資料としているもので、平成15年度も前年度に引き続き実施します。

### 8. ガンカモ調査[ガンカモ科鳥類の生息調査]

我が国におけるガン・カモ・ハクチョウ類の冬期生息状況を把握するために都道府県に依頼して全ての渡来地についてその位置、地況等の把握をするとともに、調査地ごとに調査員を配置して種ごとに個体数調査の実施をしているものです。昭和44年度から毎年実施している調査で、平成13年度より電子ファイルによる調査結果の収集を開始しました。平成15年度も前年度に引き続きとりまとめを実施します。

# みんなの広場



## センター来館者からのご意見

2003、4、1  
ゲームおもしろかったです。  
い3い3と勉強になりました。



いきなりクマが出てきて  
ビックリしました。  
バッチもらえてうれしかったです。

生物多様性センターの展示スペースでは、パソコンQ & A「めざせ！せいぶつたようせいほごレンジャー」を設置しています。レンジャー隊長に合格すると、ズックのバッジがもらえるよ。チャレンジしてみてね。(ズック)



富士山と桜(03.4.06) (左)  
かまくらとキャンドル  
(03.2.8) (右)



## 富士北麓の風物

### 富士吉田の道路事情

富士五湖周辺は、首都圏であるにもかかわらず雪がたくさん降ります。今年の冬は寒いせいで例年に比べて積雪量が多く、4月に入っても雪が25cmも積まりました。これはここ十数年でも初めてのことだそうです。雪が降ると、多様性センター周囲は職員が除雪作業を行わなくてはならないのですが、例年は3～4回であるのが今年度はその倍以上に回数が増えました。多様性センター周囲は5月頃まで雪が残りそうです。

雪が降ると降らないとで大きく違ってくるものに自動車の運転があります。私は多様性センターに来るまでスノータイヤで走ったことがなく、雪道を走るのは怖くもありまた楽しみでもありました。以前雪道を高速で疾走する車に同乗したときの経験から、スノータイヤを履いていれば余程のことがない限りスリップすることはないと思いでいたのですが、大きな間違いであることを痛感しました。

私は以前東京に住んでいましたが、家の周辺は道路が狭くまた交通規制が多く、運転には相当緊張を強いられましたが、富士吉田に引っ越してから多少変わりました。富士吉田周辺もまた道幅が狭く、交差点等では譲り合いの精神を示す必要はありますが、全体として交通事情はそれほどシビアではなく、運転しやすい所といえます。都会の運転は、車や人が多いので周りに気を使いながら運転しなければならないので精神衛生上良くありません。なるべく行きたくないというのが実感です。(う)

## 人の動き 2003年1月～4月

〈転出〉			
情報システム企画官	鵜野澤 茂	(国土交通省国土地理院へ)	【4月1日付け】
専門調査官	五十嵐 毅	(退職)	【3月31日付け】
事務補佐員	小林 真奈美	(退職)	【3月31日付け】
〈転入〉			
情報システム企画官	梶川 昌三	(国土交通省国土地理院から)	【4月1日付け】
調査科員	若松 徹	(新規採用)	【4月1日付け】
事務補佐員	桜井 澄重	(新規採用)	【4月1日付け】
〈異動〉			
調査科員	並木 光行	(主査)	【4月1日付け】

## センターの動き 2003年1月～4月

1/6	御用始め	3/18～3/20	GIS講習会
1/10	インターネット自然研究所第3回技術部会	3/25	鳥類標識調査検討会
1/15	鈴木環境大臣センター視察	3/27	干潟調査検討会
1/29	基礎調査都道府県連絡会議	3/31	「田んぼの生きもの調査2002」の結果 について記者発表(農林水産省との連携調査)
2/12	自然環境保全基礎調査特定植物群落分科会	4/2	JICA研修(ブラジル、マレーシア)
2/17	全国巨樹・巨木林の会理事会	4/4	中川環境事務次官センター視察 川那部琵琶湖博物館長センター視察
2/18	自然環境保全基礎調査検討会 植生分科会 及び植生調査作業部会		

## 来館者 2003年1月～4月

鈴木環境大臣、中川環境事務次官、川那部琵琶湖博物館長  
ほかにも、大勢の方にお越しいただきました。ありがとうございました。

### お知らせ

5月から土・日曜も展示室をオープン致します。生物多様性センターは富士スバルラインの途中(料金所の手前)に位置しております。富士五湖周辺にお越しの際は、どうぞお立ち寄り下さい。

#### 展示室 (入館無料)

開館時間 : 9:00～17:00

休館日 : 5～10月 祝日 (土・日と重なる場合は開館)

11月～4月 土・日・祝日、12/28～1/4

#### 図書閲覧室

開館時間 : 9:00～17:00

休館日 : 土・日・祝日、12/28～1/4



### 案内図



発行 : 環境省自然環境局生物多様性センター

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾 5597-1

電話 : 0555-72-6031 FAX : 0555-72-6032

URL : <http://www.biodic.go.jp/> e-mail : [newsman@biodic.go.jp](mailto:newsman@biodic.go.jp)

**R100** この会報は古紙100%の再生紙を使用しています。

**PRINTED WITH SOYINK** この印刷物は地球にやさしい植物性大豆油インキを使用しています。